

第六條 特修兵隊編以上ノ刑ニ處セラレタル
トキハ所轄長ハ其ノ特技章ヲ褫奪ス但シ刑
ノ執行ヲ猶豫セラレタルトキハ其ノ情狀ニ
依リ所屬長官ノ認可ヲ經テ之ヲ褫奪セサル
コトヲ得
特修兵左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所轄
長ハ所屬長官ノ認可ヲ經テ其ノ特技章ヲ褫
奪スルコトヲ得
一 品行不正ニシテ改役ノ見込ナキトキ
二 實務ノ成績不良ナルトキ

日本經濟規模估計十一
萬井附ノ

閣下 二六

昭和十三年三月二十四日

決意昭和十三年三月二十四日

昭和十三年四月一日

内閣總理大臣 齋藤

内閣書記官長

内閣書記官

外務大臣	陸軍大臣	文部大臣	逓信大臣	厚生大臣
五	五	五	五	五
内務大臣	海軍大臣	農林大臣	鐵道大臣	
五	五	五	五	
大藏大臣	司法大臣	商工大臣	拓務大臣	
五	五	五	五	

別紙兩院ノ議決ヲ經タル 國家總動
員 法 案ヲ審査スルニ右ハ貴族院

議長上奏ノ通裁可ヲ奏請セラレ可然ト認ム

上諭案

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル國家總

動員法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ

公布セシム

御名 御璽

昭和十三年三月三日

内閣總理大臣

各省大臣

法律第五十五號

(上奏ノ通)

内閣

貴族院ハ兩院ノ議ヲ經タル
國家總動員法案ノ裁可ヲ
奏請ス

昭和十三年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽

國家總動員法

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
- 二 國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料
- 三 國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及家畜衛生用物資
- 四 國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資
- 五 國家總動員上必要ナル通信用物資

六 國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資

七 國家總動員上必要ナル燃料及電力

八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二 國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三 國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務

四 國家總動員上必要ナル衛生、家畜衛生又ハ救護ニ關スル業務

五 國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六 國家總動員上必要ナル試験研究ニ關スル業務

七 國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八 國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ従業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免スルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲ノ社債ノ募集又ハ資本ノ増加ニ付商法第二百條又ハ第二百十條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ従業者

ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ

新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ニ對シ當該事業ノ統制ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ組合ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ組合成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ組合ニ對シ其ノ組合員ノ營業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ組合員ニ對シ組合ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障ア

ルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試験研究機關ノ管理者ニ對シ試験研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依

ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該

官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

五 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サザル者

二 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條 第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテ

ハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮

又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者

亦前項ニ同ジ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若

ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月

以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ従事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ従業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本

條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ
本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項(軍機ニ關スルモノヲ除ク)ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲
國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國家總動員法案

右衆議院ノ議決ヲ經タル政府提出案本院ニ於
テ可決セリ依テ御執奏相成度議院法第三十一
條ニ依リ此段申進候也

昭和十三年三月二十四日

貴族院議長伯爵松平賴壽

内閣總理大臣公爵近衛文磨殿



貴
方
院

國家總動員法案帝國議會、
提出ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

昭和十三年二月十八日

内閣總理大臣公爵近衛文磨



昭和十三年二月

日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

法制局長官

外務大臣	陸軍大臣	文部大臣	逓信大臣	厚生大臣
五	五	五	五	五

内務大臣	海軍大臣	農林大臣	鐵道大臣	
五	五	五	五	

大藏大臣	司法大臣	商工大臣	拓務大臣	
五	五	五	五	

別紙内閣總理大臣及各省大臣

請議國家總動員法案

ヲ審査スルニ右ハ相當ノ儀ト思考ス依テ請議ノ通

閣議決定帝國議會ニ提出セラレ可然ト認ム

法律案

呈案附箋ノ通

國家總動員法案

右

勅旨ヲ奉ジ帝國議會ニ提出ス

昭和十三年二月十九日衆一

内閣總理大臣

各省大臣

壹月廿九日

主任總務部内田書記官

閣議請議

國家總動員法制定ノ件

國家總動員ノ實施及準備ニ遺憾ナカラシムル爲國家總動員法制定ノ
必要アリト認ム仍テ別紙國家總動員法案ヲ提出ス

右閣議ヲ請フ

昭和十三年一月二十八日

内閣總理大臣 公爵 近衛 文



外務大臣

廣田 弘

毅



内務大臣

末次 信

正



大藏大臣

賀屋 興

宣



陸軍大臣

杉 山

元



海軍大臣

米 内

光



司法大臣

鹽 野

季



文部大臣 侯爵 木戸 幸一



農林大臣 伯爵 有馬 頼寧



商工大臣 吉野 信次



逓信大臣 永井 柳太郎



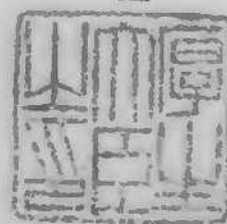
鐵道大臣 中島 知久平



拓務大臣 大谷 尊由



厚生大臣 侯爵 木戸 幸一



内閣總理大臣 公爵 近衛 文麿 殿

國家總動員法

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時（戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ）ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有
效ニ發揮セシムル機人的及物的資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
- 二 國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料
- 三 國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及家畜衛生用物資
- 四 國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資
- 五 國家總動員上必要ナル通信用物資
- 六 國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資

七 國家總動員上必要ナル燃料及電力

八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸送、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二 國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三 國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務

四 國家總動員上必要ナル衛生、家畜衛生又ハ救護ニ關スル業務

五 國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六 國家總動員上必要ナル試験研究ニ關スル業務

七 國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八 國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ従業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ労働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ労働争議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又

ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞働爭議ニ關スル
行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ム
ル所ニ依リ總動員物資ノ生産、修理、配給、譲渡其ノ他ノ處分、
使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ム
ル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ
命ジ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ
減免スルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ム
ル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定
ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ
募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社

ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ
銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資
金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業
務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲
ノ社債ノ募集又ハ資本ノ増加ニ付商法第二百條又ハ第二百十條ノ
規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定
ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其
ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管
理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定
ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實
施スル特許發明若ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年、内ニ拂下ル^ルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ニ對シ當該事業ノ統制ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得
前項ノ組合ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ組合成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該

組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ組合ニ對シ其ノ組合員ノ營業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若シテ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ組合員ニ對シ組合ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保険料、賃賃料又加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ

爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障アルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押アルコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ禁トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ禁トスル者又ハ試験研究機關ノ管理者ニ對シ試験研究

ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ禁トスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、増設若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第三十二條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル地下ノ償額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保護又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ隨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其

ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千萬圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者

二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千万圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者
二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者
三 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシ
テ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條
若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
四 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者
五 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者
第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ
併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓
以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務
ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ

爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サ

ザル者

二 第三十、條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタ

ル者

第三十九條 第二十、條第一項ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者
二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者
三 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシ
テ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條
若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
四 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者
五 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者
第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ
併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓
以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務
ニ從事セザル者
二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ
爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者
第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サ
ザル者

二 第三十、條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
三 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタ
ル者

第三十九條 第二十、條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シ

タルトキハ新聞紙ニ在リテハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十條 第二十、條第二項、
差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前二條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨グ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ從事シタル者、
ハ、シタル當該官廳指定ノ總動員ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
公務員又ハ其ノ職在リタル者職務上知得、
應指定ノ總動員ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル、
ハ、法人ノ業務上ノ祕密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタル

トキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行
爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部
ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
十一條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約
束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス
ルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他
ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、
第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ
違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニハ
對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有

スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地
外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル
人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者、
ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

本法並則ハ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス

トキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

十一條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニハ對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十七條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有

スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地
外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル
人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者、
ガ本法施行地外

第五十

國策總論卷之三 規程ハ新令ヲ改テ之ヲ定メ

金幣一歩重尾に道尾ミヅノオノ島根ニオシノイテ治ニ任

トキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

十一條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、

第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニハ

對シ各本條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當、規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國家總動員法案理由書

近代國防ノ特質ニ鑑ミ國家總動員ノ實施及準備ニ付準據スベキ法
規ヲ制定シ現下時局ノ推移及將來ノ戰時事變ニ備フルノ要アリ是
レ本案ヲ提出スル所以ナリ

参照

商法

明治三十二年三月
法律第四十八號

(國務大臣副署)

第二百條 株式會社ノ額定資本額ニ達セザルコトヲ得ス
最終ノ貸與明細表ニ依リ會社ニ寄存スル財産力減額ノ金額ニ滿
タサルトハ株式ノ額額ハ其財産ノ額ニ達スルコトヲ得ス
第二百十條 會社ノ定款ハ其ノ全額ノ額ノ後ニ其額ノ増加
スルコトヲ得ス

参照

新聞紙法

明治四十二年五月
法律第四十一號

(總理陸軍外務海軍
内務司法大臣副署)

第二十三條 内務大臣ハ新聞紙掲載ノ事項ニ
シテ安寧秩序ヲ紊シ又ハ風俗ヲ害スルモノ
ト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必
要ノ場合ニ於テハ之ヲ差押スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ内務大臣ハ同一主旨ノ事
項ノ掲載ヲ差止ムルコトヲ得

日本標準規格四列(十一行全)(富井納)

刑法

天明
丁酉
丁酉
丁酉
丁酉
丁酉
丁酉

第九卷 併合編

第四十五條 確定裁判ノ經サル數罪ノ併合罪トスル者シ或罪ニ付キ確定裁判

第四十六條 併合罪中其一罪ニ付テ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セズ

但沒收ハ此限ニ在ラス
其ノ一、付テ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處テ可キトキ亦能ノ利ナ料セズ但罰金、科料及リ沒收ノ此限ニ在ラス

第四十七條 併合町中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アル
キハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其中數付加ヘサルモノナリ
テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノト認ムルコ
トヲ得ス

第四十八條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第四十六條第一項ノ場合ハ其
限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス
第四十九條 併合罪中重キ罪ニ沒收ナシト運ビ他ノ罪ニ沒收アルトキハ之

ヲ附加スルコトヲ得
二個以上ノ混収ハ之ヲ併料ス

第五十條 合併訴訟中既に裁判を経た部分に對し未だ裁判を経ざる部分に對しアルトモ

第五十一條 併合罪ニ付キ二罰以上ノ裁判アリトキハ其刑ヲ併セテ
執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ沒收ヲ除ケ外他ノ刑ヲ執行セス無罪

ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行人可キトキハ罰金、科料及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑

ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第五十二條 犯合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キテ該罪ノ受ケタル刑

合ニ於テハ特ニ大數ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

此限ニ在ラス

第五十四條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レル者ハ其最重罪ノ刑ヲ以テ處断ス

第四十九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

トシテ之ヲ處斷ス

5月

参照

●昭和十二年法律第八十八號（軍
需工業動員法ノ適用ニ關スル法
律）

昭和十二年九月十日
法律第八十八號

陸帝國議會ノ協賛ヲ經テ、軍需工業動員法ノ適用ニ關スル法律ヲ裁可シ、茲
ニ之ヲ公布セシム（國務省大
臣署名）
軍需工業動員法中戰時ニ關スル規定ハ支那事變ニ亦之ヲ適用ス

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

参照

●軍需工業動員法

大正七年四月十七日
法律第三十八號

(各大臣
副署)

日本國軍規程附例(十一行全)(當井納)

内閣
閣

軍需工業法

- 第一條 本法ニ於テ軍需品トモテハ左ノ各號ニ掲グルモノヲ謂フ
- 一 兵器、艦艇、航空機、履帶式車両、機械及物品
 - 二 軍用ニ供シ得ヘキ船舶、陸路輸送設備、鐵道輸送及其ノ附屬設備其ノ他ノ輸送用物件
 - 三 軍用ニ供シ得ヘキ燃料、被服及電料
 - 四 軍用ニ供シ得ヘキ衛生材料及藥劑材料
 - 五 軍用ニ供シ得ヘキ通信用物件
 - 六 前各號ニ掲グルモノノ生産又ハ修理ニ要スル材料、燃料、器具機械、設備及建築材料
 - 七 前各號ニ掲グルモノノ修理ノ外補助ノ以テ指定スル軍用ニ供シ得ヘキ物件
- 第二條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲必要アルトキハ左ノ各號ニ掲グル工場及事業場其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得
- 一 軍需品ノ生産又ハ修理ノ爲工場及事業場
 - 二 前號ニ掲グル工場及事業場ニ要スル原料若ハ燃料ノ生産又ハ電力若ハ動力ヲ發生スル工場及事業場
 - 三 前各號ニ掲グル工場ニ轉用スルコトヲ得ル工場
- 第三條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品ノ生産、修理又ハ貯藏ノ爲必要アルトキハ土地、家屋、倉庫其ノ他ノ工作物及其ノ附屬設備ノ全部又ハ一部ヲ管理シ、使用シ又ハ收用スルコトヲ得
- 政府ハ戰時ニ際シ必要アルトキハ第一條第一號ニ掲グル物件ノ全部又ハ

日本標準規格表(十一行全)(富井納)

一部ノ管理スルコトヲ得

- 第四條 前二條ノ場合ニ於テ政府ハ從業者ヲ供用セシムルコトヲ得
- 第五條 前二條ノ規定ニ依リ處分ニ因リ生シタル損害ノ政府ノ補償ス
- 第六條 政府ハ戰時ニ際シ軍需品又ハ第二條第一號ノ原料若ハ燃料ノ藏藏、使用、消費、所持、移轉若ハ輸出入ニ關シ必要トキ命令ヲ爲スコトヲ得
- 第七條 戰時ニ際シ第一條ニ掲グル物件ニシテ戰時命令中ニ規定ナキモノヲ使用又ハ收用セムトスルトキハ戰時命令ノ規定ヲ準用ス
- 第八條 政府ハ戰時ニ際シ兵役ニ在ル者ヲ戰時命令ニ拘ラス命令ノ定ムル所ニ依リ召集シテ軍需輸送機關又ハ第二條第一號ノ規定ニ依リ政府ノ管理スル工場若ハ事業場ノ業務ニ從事セシムルコトヲ得
- 前項ノ規定ハ第二條各號ニ掲グル工場又ハ事業場ニシテ國ノ評價ニ係ルモノニ關シ之ヲ準用ス
- 第九條 政府ハ戰時ニ際シ勅令ノ定ムル所ニ依リ兵役ニ在ラサル者ヲ動員シテ前條ニ掲グル業務ニ從事セシムルコトヲ得
- 第十條 第二條又ハ第三條ノ規定ニ依リ收用シタル工場、事業場、土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物及其ノ附屬設備ニ關シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ五年内ニ拂下グルトキハ所有權者又ハ其ノ承継人ニ於テ優先ニ之ヲ買受ケルコトヲ得
- 第十一條 政府ハ軍需上必要アルトキハ第二條各號ニ掲グル工場若ハ事業場若ハ倉庫又ハ其ノ管理者ニ對シテ軍事ニ使用スル設備、器具機械、從業者若ハ材料原料器具機械ノ供給者又ハ生産者若ハ修理ノ能力者ハ數量其ノ他軍事ノ狀況ニ付必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命スルコトヲ得

第十二條

- 政府ハ軍需上必要アルトキハ鐵道、軌道、船舶、海陸聯絡線、設備其ノ他ノ輸送用物件ノ所有者又ハ管理者ニ對シテ車輛、軌道、船舶又ハ海陸聯絡線設備ノ敷設、構造、維護能力、從業者其ノ他必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命スルコトヲ得
- 第十三條 政府ハ軍需上必要アルトキハ軍需品又ハ第二條第二號ノ原料若ハ燃料ノ取引又ハ保管ノ業務ニ關スル者ニ對シテ其ノ取引ノ相手方、取引又ハ保管ノ數量、保管ノ設備其ノ他事業ノ狀況ニ付必要ト認ムル事項ノ報告ヲ命スルコトヲ得
- 第十四條 政府ハ軍需上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二條各號ニ掲グル工場若ハ事業場ヲ有スル者又ハ前條ニ掲グル者ニシテ一定ノ資格アルモノニ對シテ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シテ軍需品ノ生産、修理若ハ貯藏ヲ爲サシメ又ハ軍需上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得
- 政府ハ前項ノ規定ニ依リ利益保證又ハ獎勵金下付ヲ受クル事業ヲ監督シ又ハ之ヲ必要ナル命令若ハ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第十五條 第五條ノ規定ニ依リ補償金及前條ノ利益保證又ハ獎勵金ノ算定ニ關シタル規定ニ依リ拂下價額ハ軍需評議會ノ決議ヲ經テ之ヲ定ム
- 第十六條 軍需評議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第十七條 官廳官吏又ハ吏員ハ第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ報告ヲ命シ得ル事項調査ノ爲又ハ第十四條ノ規定ニ依リ監督若ハ處分ヲ爲ス爲必要ナル場所ニ立入り、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ從業者ニ對シテ質問ヲ爲スコトヲ得
- 第十八條 工業的發明ニ係ル物又ハ方法ニ關シテ政府ノ承認ヲ得タル事

項又ハ設備ニ付テハ報告ヲ命シ、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ從業者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 利益保護又ハ獎勵金ヲ受ケル事業ヲ承繼スル者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發シタル命令、之ニ依リテ爲ス處分又ハ利益保護若ハ獎勵金下付ニ附シタル條件ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承繼ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條又ハ第三條ノ規定ニ依ル管理、使用又ハ取用ヲ拒ミタル者

二 第四條ノ規定ニ依ル供用ヲ拒ミタル者

三 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十條 第十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ依ル召集ニ應セス又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事スルコトヲ拒ミタル者

二 第九條ノ規定ニ依ル徴用ニ應セス又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事スルコトヲ拒ミタル者

三 第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依ル命令セラレタル報告ヲ爲サス又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタル者

四 第十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第十六條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若

ハ怠慢シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虛偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ質問ニ對シ虛偽ノ回答ヲ爲シタル者

第二十二條 當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者若ハ本法ニ依ル職務ニ依リ知得シタル事業上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス當該官吏又ハ吏員第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ亦同シ

職務上知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキ罰則同シ

大正七年十月二日
勅令第三百六十八號

陸軍省工業部員法ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣署名)

軍需工業部員法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附則
本令ハ公布ノ日より之ヲ施行ス

日本國家總動員法(十一行全)(前并附)

國家總動員法案

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時又ハ事變ニ際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人の及物の資源ヲ統制運用スルヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
- 二 國家總動員ノ爲必要ナル被服、食糧、飲料及飼料
- 三 國家總動員ノ爲必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及獸醫用物資
- 四 國家總動員ノ爲必要ナル船舶、航空機、車輛、馬匹其ノ他ノ輸送用物資
- 五 國家總動員ノ爲必要ナル通信用物資
- 六 國家總動員ノ爲必要ナル土木建築用物資及照明用物資
- 七 國家總動員ノ爲必要ナル燃料及電力

付箋

項又公設備ニ付テハ報告ヲ命シ、検査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ従業者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 利益保護又ハ獎勵金ヲ受ケル事業ヲ承継スル者ハ本法若ハ本法ニ基キテ發シタル命令、之ニ依リテ爲ス處分又ハ利益保護若ハ獎勵金下付ニ附シタル條件ニ依ル前者ノ權利義務ヲ承継ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條又ハ第三條ノ規定ニ依ル管理、使用又ハ取用ヲ拒ミタル者

二 第四條ノ規定ニ依ル供用ヲ拒ミタル者

三 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第二十條 第十四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第八條ノ規定ニ依ル召集ニ應セス又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ従事スルコトヲ拒ミタル者

二 第九條ノ規定ニ依ル費用ニ應セス又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ従事スルコトヲ拒ミタル者

三 第十一條乃至第十三條ノ規定ニ依リ命セラレタル報告ヲ爲サス又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

四 第十四條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

五 第十六條ノ規定ニ依ル當該官吏又ハ吏員ノ職務ノ執行ヲ拒ミ妨ケ若

ハ忌避シ、調査資料ノ提供ヲ爲サス若ハ虚偽ノ調査資料ヲ提供シ又ハ質問ニ對シ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第二十二條 當該官吏若ハ吏員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務ニ依リ知得シタル事業上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス當該官吏又ハ吏員第十七條ノ規定ニ違反シタルトキ亦同シ

職務上知得シタル秘密ヲ知得シタル他ノ公務員又ハ公務員タリシ者其ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキ罰則ノ同シ

大正七年十月二日
勅令第三百六十八號

陸軍省工業動員法ヲ朝鮮臺灣及樺太ニ施行スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣署名)

附則
軍需工業動員法ハ之ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行ス

附則
本令ハ公布ノ日より之ヲ施行ス

日本標準規格B4列(十一行全)(富井勲)

付箋

廢案

八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員ノ爲必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二 國家總動員ノ爲必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三 國家總動員ノ爲必要ナル金融ニ關スル業務

四 國家總動員ノ爲必要ナル衛生又ハ救護ニ關スル業務

五 國家總動員ノ爲必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六 國家總動員ノ爲必要ナル試験研究ニ關スル業務

七 國家總動員ノ爲必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八 國家總動員ノ爲必要ナル警備ニ關スル業務

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員ノ爲必要ナル業務

員ノ爲必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨グズ

第五條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ事務ニ關スル總動員業務ニ協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ他ノ法令ノ規定ニ拘ラズ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキハ

勅令ノ定ムル所ニ依リ労働争議ノ豫防若ハ解決又ハ作業所ノ閉鎖、
作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ労働争議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁
止ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキハ
總動員物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、
所持又ハ移動ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
第九條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ
輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免ス
ルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變

更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ
爲シ、利益金ノ處分ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行其ノ他金
融業務ヲ取扱フ者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコ
トヲ得

第十二條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキ
ハ總動員業務ニ關スル事業ヲ營ム會社ノ事業ニ屬スル設備ノ費用
ニ充ツル爲ノ社債ノ募集又ハ資本ノ増加ニ付商法第二百條又ハ第
二百十條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ關スル事業ニ屬スル設備及
之ニ轉用スルコトヲ得ル設備ノ全部又ハ一部竝ニ之ニ供用スル爲
必要ナル土地、家屋、倉庫其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用
スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定

ムル所ニ依リ其ノ從業者ヲ供用セシメ、當該設備ニ於テ現ニ實施
スル特許發明又ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權、水ノ使用ニ關スル權利、
著作權又ハ出版權ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合
ニ於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ承繼人ハ優先ニ之ヲ買受ケ
ルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良
ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務ニ關スル事業ニ屬スル設備ノ新
設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキ

ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ關スル事業ノ事業主間ニ於
ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ
受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ニ
加盟シ若ハ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコト
ヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ關スル事業ノ事業主ニ對シ
當該事業ノ統制ヲ目的トスル組合又ハ當該事業ノ統制ニ關スル事
業ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ組合ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタ者其ノ設立ヲ爲サザルト
キハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコト
ヲ得

第一項ノ事業ノ統制ヲ目的トスル組合成立シタルトキハ當該組合

ノ組合員タル資格ヲ有スル者ハ其ノ組合ノ組合員トス
第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキハ
勅令ノ定ムル所ニ依リ物價、運賃、保管料、保険料、賃賃料、加
工賃其ノ他ノ價格ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルトキ
ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ集會又ハ多衆運動ノ制限又ハ禁止ニ關シ
必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十一條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ國家總動員ノ爲必要アルト
キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙又ハ出版物ノ掲載事項ニ關シ制
限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙又ハ出版物ニシテ
國家總動員上支障アリト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ之
ヲ差押フルコトヲ得

出版物ニ對シ前項ノ處分ヲ爲ストキハ併セテ其ノ刻版ヲ差押フル
コトヲ得

第二十二條 政府ハ戰時又ハ事變ニ際シ新聞紙法第二十三條又ハ前
條第二項ノ規定ニ依リ一箇月二回以上又ハ引續キ二回以上新聞紙
ノ發賣及頒布ヲ禁止シタル場合ニ於テ國家總動員ノ爲必要アルト
キハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ新聞紙ノ發行ヲ停止スルコトヲ得
前項ノ停止ノ命令ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷
シタル新聞紙ハ管轄地方官廳ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民
ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ
關シ検査スルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル

施設ノ管理者又ハ養成ヲ受クル者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員ノ爲
必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該
物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得
第二十六條 政府ハ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ總動員業務ニ關スル事業ノ事業主又ハ戰時若ハ事變ニ際シ
總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時若ハ事變ニ際シ實施セ
シムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基
キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所

ニ依リ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試驗研究機關
ノ管理者ニ對シ國家總動員上重要ナル試驗研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十八條 政府ハ國家總動員ノ爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所
ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍
内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ獎勵金ヲ下付スルコトヲ得此ノ
場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サ
シメ又ハ國家總動員ノ爲必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十九條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三
條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分又ハ第九條ノ規定ニ依リ輸出若
ハ輸入ヲ命ゼラレ若ハ第十六條ノ規定ニ依リ設備ノ新設、擴張若
ハ改良ヲ命ゼラレタルニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス
政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ銀行其ノ他金融業務ヲ取扱フ者ニ對
シ其ノ戰時又ハ事變ニ際シ爲シタル總動員業務ニ關スル事業ニ對
スル資金ノ融通ニ因リ生ジタル損失ヲ補償スルコトヲ得

第三十條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第二十四條、第二十五條及第二十七條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ下付ス

第三十一條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル積下ノ償額ノ決定ニ當リテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員補償委員會ノ議ヲ經ベシ

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條 政府ハ第二十八條及第三十條ノ規定ニ依リ利益保證、賠償金若ハ補助金下付ヲ受クル事業若ハ業務ヲ監督シ又ハ之ガ爲必要ナル命令若ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十三條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ關係アル事項ニ付報告ヲ徴シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務若ハ財産ノ狀況若ハ帳簿、書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

第三十四條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十五條 左ノ各條ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 二 第八條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者
- 三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者
- 四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル設備、土地又ハ工作物ノ管理、使用若
ハ收用又ハ従業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

七 臨時又ハ事變ニ際シ第二十八條ノ規定ニ違反シ生産又ハ修理
ヲ爲サザル者

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千
圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者

三 第十七條ノ規定ニ違反シ受ケズシテ統制協定ヲ設定、
變更若ハ廢止シ又ハ同條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

五 第二十八條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十七條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ

併科スルコトヲ得

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓
以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル需用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務
ニ従事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ技能者ノ養成ヲ爲サザ
ル者

二 第二十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演習ヲ
爲サザル者

三 第二十七條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者

第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サ

ザル者

二 第三十二條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第三十三條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第四十一條 第二十條ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ノ命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條 第二十一條ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ發行人及編輯人ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者亦前項ニ同ジ

第四十三條 第二十二條第一項ノ規定ニ依リ新聞紙ノ發行停止ヲ命ゼラレタル者其ノ停止期間中ニ其ノ新聞紙ヲ發行シタルトキハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 第二十一條第二項若ハ第三項又ハ第二十二條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十五條 前三條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十六條 第三十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨グ又ハ忌避シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十七條 第二十三條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十八條 第二十六條ノ規定ニ依リ計畫ノ設定又ハ演練ヲ命ゼラレタル者若ハ之ニ從事シタル者又ハ第二十七條ノ規定ニ依リ試験研究ヲ命ゼラレタル者若ハ之ニ從事シタル者之ニ關シ知得シタル官職ノ秘密ヲ洩漏シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務
執行ニ關シ知悉シタル個人又ハ法人ノ業務上ノ秘密ヲ漏泄シ又ハ
竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
第五十條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合
ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタル
トキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行
爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部
ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
第五十一條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約
束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除ス
ルコトヲ得

第五十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他

ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十四條乃至第三十六條、
第三十八條第二項、第三十九條、第四十條又ハ第四十七條前段ノ
規定ニ違反スル行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法
人又ハ人ニ對シ其ノ罰金刑若ハ科料刑ヲ科ス
第五十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣
民ニ亦之ヲ適用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

國家總動員法案

國家總動員法

第一條 本法ニ於テ國家總動員トハ戰時(戰爭ニ準ズベキ事變ノ場合ヲ含ム以下之ニ同ジ)ニ
際シ國防目的達成ノ爲國ノ全力ヲ最モ有效ニ發揮セシムル様人的及物的資源ヲ統制運用ス
ルヲ謂フ

第二條 本法ニ於テ總動員物資トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

- 一 兵器、艦艇、彈藥其ノ他ノ軍用物資
- 二 國家總動員上必要ナル被服、食糧、飲料及飼料
- 三 國家總動員上必要ナル醫藥品、醫療機械器具其ノ他ノ衛生用物資及家畜衛生用物資
- 四 國家總動員上必要ナル船舶、航空機、車輛、馬其ノ他ノ輸送用物資
- 五 國家總動員上必要ナル通信用物資

六 國家總動員上必要ナル土木建築用物資及照明用物資

七 國家總動員上必要ナル燃料及電力

八 前各號ニ掲グルモノノ生産、修理、配給又ハ保存ニ要スル原料、材料、機械器具、裝置其ノ他ノ物資

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル物資

第三條 本法ニ於テ總動員業務トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 總動員物資ノ生産、修理、配給、輸出、輸入又ハ保管ニ關スル業務

二 國家總動員上必要ナル運輸又ハ通信ニ關スル業務

三 國家總動員上必要ナル金融ニ關スル業務

四 國家總動員上必要ナル衛生、家畜衛生又ハ救護ニ關スル業務

五 國家總動員上必要ナル教育訓練ニ關スル業務

六 國家總動員上必要ナル試験研究ニ關スル業務

七 國家總動員上必要ナル情報又ハ啓發宣傳ニ關スル業務

八 國家總動員上必要ナル警備ニ關スル業務

九 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外勅令ヲ以テ指定スル國家總動員上必要ナル業務

第四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民ヲ徵用シテ總動員業務ニ從事セシムルコトヲ得但シ兵役法ノ適用ヲ妨ゲズ

第五條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國法人其ノ他ノ團體ヲシテ國又ハ地方公共團體ノ行フ總動員業務ニ付協力セシムルコトヲ得

第六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ從業者ノ使用、雇入若ハ解雇又ハ賃金其ノ他ノ勞働條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞動爭議ノ豫防若ハ解決ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ作業所ノ閉鎖、作業若ハ勞務ノ中止其ノ他ノ勞動爭議ニ關スル行爲ノ制限若ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

第八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、修理、配給、讓渡其ノ他ノ處分、使用、消費、所持及移動ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ輸出若ハ輸入ノ制限若ハ禁止ヲ爲シ、輸出若ハ輸入ヲ命ジ、輸出税若ハ輸入税ヲ課シ又ハ輸出税若ハ輸入税ヲ増課若ハ減免スルコトヲ得

第十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十一條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ會社ノ設立、資本ノ増加、合併、目的變更、社債ノ募集若ハ第二回以後ノ株金ノ拂込ニ付制限若ハ禁止ヲ爲シ、會社ノ利益金ノ處分、償却其ノ他經理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲シ又ハ銀行、信託會社、保險會社其ノ他勅令ヲ以テ指定スル者ニ對シ資金ノ運用ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十二條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ總動員業務タル事業ヲ營ム會社ノ當該事業ニ屬スル設備ノ費用ニ充ツル爲ノ社債ノ募集又ハ資本ノ増加ニ付商法第二百條又ハ第二百十條ノ規定ニ拘ラズ勅令ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ニ屬スル工場、事業場、船舶其ノ他ノ施設又ハ之ニ轉用スルコトヲ得ル施設ノ全部又ハ一部ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

政府ハ前項ニ掲グルモノヲ使用又ハ收用スル場合ニ於テ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ従業者

ヲ供用セシメ又ハ當該施設ニ於テ現ニ實施スル特許發明若ハ登録實用新案ヲ實施スルコトヲ得

政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務ニ必要ナル土地又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ管理、使用又ハ收用スルコトヲ得

第十四條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ鑛業權、砂鑛權及水ノ使用ニ關スル權利ヲ使用又ハ收用スルコトヲ得

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ收用シタルモノ不用ニ歸シタル場合ニ於テ收用シタル時ヨリ十年内ニ拂下グルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ舊所有者若ハ舊權利者又ハ其ノ一般承繼人ハ優先ニ之ヲ買受クルコトヲ得

第十六條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ事業ニ屬スル設備ノ新設、擴張若ハ改良ヲ制限若ハ禁止シ又ハ總動員業務タル事業ニ屬スル設備ノ

新設、擴張若ハ改良ヲ命ズルコトヲ得

第十七條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種若ハ異種ノ事業ノ事業主間ニ於ケル當該事業ニ關スル統制協定ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制協定ノ設定、變更若ハ取消ヲ命ジ又ハ統制協定ノ加盟者若ハ其ノ統制協定ニ加盟セザル事業主ニ對シ其ノ統制協定ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十八條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル同種又ハ異種ノ事業ノ事業主ニ對シ當該事業ノ統制ヲ目的トスル組合ノ設立ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ組合ハ法人トス

第一項ノ規定ニ依リ設立ヲ命ゼラレタル者其ノ設立ヲ爲サザルトキハ政府ハ定款ノ作成其ノ他設立ニ關シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第一項ノ組合成立シタルトキハ政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ當該組合ノ組合員タル資格ヲ有スル者ヲシテ其ノ組合ノ組合員タラシムルコトヲ得

政府ハ第一項ノ組合ニ對シ其ノ組合員ノ營業ニ關スル統制規程ノ設定、變更若ハ廢止ニ付認可ヲ受ケシメ、統制規程ノ設定若ハ變更ヲ命ジ又ハ其ノ組合員ニ對シ組合ノ統制規程ニ依ルベキコトヲ命ズルコトヲ得

第一項ノ組合ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十九條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ價格、運送賃、保管料、保險料、賃貸料又ハ加工賃ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十條 政府ハ戰時ニ際シ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ新聞紙其ノ他ノ出版物ノ掲載ニ付制限又ハ禁止ヲ爲スコトヲ得

政府ハ前項ノ制限又ハ禁止ニ違反シタル新聞紙其ノ他ノ出版物ニシテ國家總動員上支障ア

ルモノノ發賣及頒布ヲ禁止シ之ヲ差押フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ併セテ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ帝國臣民及帝國臣民ヲ雇傭若ハ使用スル者ヲシテ帝國臣民ノ職業能力ニ關スル事項ヲ申告セシメ又ハ帝國臣民ノ職業能力ニ關シ検査スルコトヲ得

第二十二條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ學校、養成所、工場、事業場其ノ他技能者ノ養成ニ適スル施設ノ管理者又ハ養成セラルベキ者ノ雇傭主ニ對シ國家總動員上必要ナル技能者ノ養成ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十三條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産、販賣又ハ輸入ヲ業トスル者ヲシテ當該物資又ハ其ノ原料若ハ材料ノ一定數量ヲ保有セシムルコトヲ得

第二十四條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員業務タル事業ノ事業主又ハ戰時ニ際シ總動員業務ヲ實施セシムベキ者ヲシテ戰時ニ際シ實施セシムベキ總動員業務ニ關スル計畫ヲ設定セシメ又ハ當該計畫ニ基キ必要ナル演練ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十五條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ業トスル者又ハ試験研究機關ノ管理者ニ對シ試験研究ヲ命ズルコトヲ得

第二十六條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ總動員物資ノ生産又ハ修理ヲ業トスル者ニ對シ豫算ノ範圍内ニ於テ一定ノ利益ヲ保證シ又ハ補助金ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ政府ハ其ノ者ニ對シ總動員物資ノ生産若ハ修理ヲ爲サシメ又ハ國家總動員上必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 政府ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第八條、第十條、第十三條若ハ第十四條ノ規定ニ依ル處分、第九條ノ規定ニ依ル輸出若ハ輸入ノ命令、第十一條ノ規定ニ依ル資金ノ融通若ハ有價證券ノ應募、引受若ハ買入ノ命令又ハ第十六條ノ規定ニ依ル設備ノ新設、擴張若ハ改良ノ命令ニ因リ生ジタル損失ヲ補償ス

第二十八條 政府ハ第二十二條、第二十三條又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ニ因リ生ジタル損失ヲ補償シ又ハ補助金ヲ交付ス

第二十九條 前二條ノ規定ニ依ル補償ノ金額及第十五條ノ規定ニ依ル拂下ノ價額ハ總動員補償委員會ノ議ヲ經テ政府之ヲ定ム

總動員補償委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十條 政府ハ第二十六條又ハ第二十八條ノ規定ニ依リ利益ノ保證又ハ補助金ノ交付ヲ受クル事業ヲ監督シ之ガ爲必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 政府ハ國家總動員上必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徴シ又ハ當該

官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務ノ狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

第三十二條 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ輸出又ハ輸入ヲ爲シ又ハ爲サントシタル物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收スルコトヲ得若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴スルコトヲ得

第三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第七條ノ規定ニ依ル命令又ハ制限若ハ禁止ニ違反シタル者
- 二 第八條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者
- 三 第九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ輸出又ハ輸入ヲ爲サザル者

四 第十條ノ規定ニ依ル總動員物資ノ使用又ハ收用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

五 第十三條ノ規定ニ依ル施設、土地若ハ工作物ノ管理、使用若ハ收用又ハ從業者ノ供用ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者

六 第十九條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 第十一條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者
- 二 第十六條ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止又ハ命令ニ違反シタル者
- 三 第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ違反シ認可ヲ受ケズシテ統制協定若ハ統制規程ヲ設定、變更若ハ廢止シ又ハ第十七條若ハ第十八條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

四 第二十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ保有ヲ爲サザル者

五 第二十六條ノ規定ニ違反シ生産、修理又ハ設備ヲ爲サザル者

第三十五條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ情狀ニ因リ懲役及罰金ヲ併科スルコトヲ得

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四條ノ規定ニ依ル徵用ニ應ゼズ又ハ同條ノ規定ニ依ル業務ニ從事セザル者

二 第六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

第三十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二 第二十四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ計畫ノ設定又ハ演練ヲ爲サザル者

三 第二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ試験研究ヲ爲サザル者

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十八條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ組合ノ設立ヲ爲サザル者

二 第三十條ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ニ違反シタル者

三 第三十一條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者

第三十九條 第二十條第一項ノ規定ニ依ル制限又ハ禁止ニ違反シタルトキハ新聞紙ニ在リテ

ハ發行人及編輯人、其ノ他ノ出版物ニ在リテハ發行者及著作者ヲ二年以下ノ懲役若ハ禁錮

又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

新聞紙ニ在リテハ編輯人以外ニ於テ實際編輯ヲ擔當シタル者及掲載ノ記事ニ署名シタル者

亦前項ニ同ジ

第四十條 第二十條第二項ノ規定ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ懲役若

ハ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 前三條ノ罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セズ

第四十二條 第三十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ又ハ忌避シタル者ハ六月

以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條 第二十一條ノ規定ニ違反シテ申告ヲ怠リ又ハ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十四條 總動員業務ニ従事シタル者其ノ業務遂行ニ關シ知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ

罰金ニ處ス

公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者職務上知得シタル當該官廳指定ノ總動員業務ニ關スル官廳ノ機密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第四十五條 公務員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ノ規定ニ依ル職務執行ニ關シ知得シタル法人又ハ人ノ業務上ノ祕密ヲ漏泄又ハ竊用シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第十八條第一項又ハ第三項ノ規定ニ依リ設立シタル組合ノ役員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第四十七條 前條第一項ニ掲グル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ第三十二條乃至第三十四條、第三十六條第二號、第三十七條、第三十八條又ハ第四十三條前段ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ各本

條ノ罰金刑又ハ科料刑ヲ科ス

第四十九條 前條ノ規定ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

本法ノ罰則ハ本法施行地外ニ於テ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニモ之ヲ適用ス

第五十條 本法施行ニ關スル重要事項(軍機ニ關スルモノヲ除ク)ニ付政府ノ諮問ニ應ズル爲メ國家總動員審議會ヲ置ク

國家總動員審議會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

軍需工業動員法及昭和十二年法律第八十八號ハ之ヲ廢止ス

本法施行前軍需工業動員法ニ基キテ爲シタル命令又ハ處分ハ之ヲ本法中ノ相當規定ニ基キテ爲シタルモノト看做ス

軍需工業動員法ニ違反シタル者ノ處罰ニ付テハ仍舊法ニ依ル

國家總動員法案理由書

近代國防ノ特質ニ鑑ミ國家總動員ノ實施及準備ニ付準據スベキ法規ヲ制定シ現下時局ノ推移及將來ノ戰時事變ニ備フルノ要アリ是レ本案ヲ提出スル所以ナリ